



Advance

令和 3 年 1 月 6 日
尾道市立高西中学校
研究推進部

先日（12月1日）の研究授業，本当にお疲れさまでした。みなさんの多大なるご協力のおかげで，本年度の研究授業を無事に終了することができました。

研究授業を通して3学期に取り組んでみてほしいこと～個別最適な学びの視点を授業に～

今年度，数学・国語をはじめとして，「単元内自由進度学習」の取り組みを先行実践していただき，「個別最適な学び」の実現に向け，大きな試金石となりました。「単元内自由進度学習」を全ての教科・内容で行うことは難しいかもしれませんが，「個別最適な学び」の視点を授業に取り入れることは可能だと思います。

そもそも「個別最適な学び」とは？

令和3年1月26日中央教育審議会の答申の中で，「**令和の日本型学校教育の構築**」に向けて目指すべき新しい時代の学校教育の姿として「**個別最適な学び**」と「**協働的な学び**」の実現が提言され，個別最適な学びを通して，各教科，特別の教科道徳，総合的な学習の時間，特別活動との内容をバランス良く確実に定着していくことが求められています。

個別最適な学びには次の2点があります。

指導の個別化

生徒一人一人の特性や学習進度，学習到達度等に応じ，**指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定**を行うこと

学習の個性化

生徒一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することによって，生徒自身の学習が最適となるよう調整をすること

正直，よく違いがわかりませんよねえ・・・具体的にはこういうことです！

指導の個別化 一人一人の学びの状況を見極めて、その児童・生徒に合った指導を行う。

☆一人一人の特性や学習進度に応じた指導を行う。（より少人数で行えるとよい）

☆個の習熟段階に応じた課題に取り組みせ、学習内容を定着させる。⇒ **eラー** 列などもあてはまる

☆授業の効率化 ⇒ 作られた時間を個別の支援にあてる。

☆個々の思考を見取り、必要に応じて個別にアプローチしたり、全体で共有したりする。

☆学習履歴を元に、一人一人の課題と学習方針を決める。⇒ **eラー** 列などもあてはまる



学習の個性化 課題に対して、児童・生徒が自ら学び方を選び、学びをデザインする。

☆自分自身で問いを立てる。課題をつかむ。学習者から始まる学び。

☆課題に対して自分で学習方法を決める。自分の方法でまとめて、**児童・生徒同士で伝え合う。**

☆家庭学習は、自分で課題を決めて学習を進める。（自主学習） **プレゼン型の授業などもあてはまる**

参考資料：個別最適な学びについて～しながわ学びのイノベーション～<https://www.city.shinagawa.tokyo.jp>

今年度の研究授業の実践を生かすためにも，3学期から各教科でこうした視点を取り入れた授業づくりに取り組んでいただければ幸いです。また，良い実践があれば教えてください！！

研究授業を通して3学期に取り組んでみてほしいこと～予想・検証型の授業～

「学習の個性化」を実現するために、生徒自身が「課題設定」にさせるという視点はかなり浸透していると思います。その課題設定をより生徒自身のものとし、解決に向けての意欲を高めるために、「仮説（予想）を立てる」というプロセスを取り入れてみることも必要だと思います。しかし、おおかた答えの見えている課題であっては仮説を立てたところであまり意味はないでしょう。本当の意味で生徒に「なぜ？」と思わせる課題設定の追求が必要です。



3学期から、この「仮説（予想）を立てる」という視点を持って授業づくりをしてみましょう！

【研究授業での協議内容】

3年 国語 題材名「夏草—「おくのほそ道」から」：吉田教諭 単元内自由進度学習

成果		課題と改善策
生徒の主体性を引き出す工夫	<ul style="list-style-type: none"> 自分で課題を決めることが主体性につながっている 思考整理カードなど、自分で学習を進める上のヒントとなる支援が豊富で、選びとることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 低学力の生徒（支援資料の活用が難しいレベル）にどう対応していくか。
対話的な学び合いを実現する工夫	<ul style="list-style-type: none"> ベン図など、思考ツールを用いて自分の考えを整理することができていた。 交流タイムの設定で、学習の内容や進め方などを生徒同士で共有し、学び合うことができていた。 	
学びの深まりを実感するための工夫	<ul style="list-style-type: none"> 授業後の振り返りに対して教師がコメントを返している。⇒評価があることで、生徒が学びの進め方のよしあしが確認できる。 	

2年 社会 題材名「『日本の諸地域 北海道地方』～特徴的な自然と歴史が織りなす都市～」：真加部教諭

成果		課題と改善策
生徒の主体性を引き出す工夫	<ul style="list-style-type: none"> 生徒のなぜを引き出す導入スライドがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の進め方が教師のイメージ通り⇒生徒が自由な発想で課題設定・解決に向かえる工夫を。
対話的な学び合いを実現する工夫	<ul style="list-style-type: none"> 豊富な資料があり、関連付けがあった。 指示が明確だった。 理由付けの発表の仕方の例示があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表するだけでなく、発表をもとに深める時間の確保が必要。 ジグソーを行うなら、個々人がエキスパートとして他者に説明する時間が必要。
学びの深まりを実感するための工夫	<ul style="list-style-type: none"> 学習の流れが構造的に板書に現れていた。 単元シートで学びのつながりが見える 関連図の作成で、学んだことが整理できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 知識を箇条書きでなく、文章で説明できるようにする必要がある。



特別支援 社会 題材名「『東京新聞を作ろう』～ずっと行きたかった東京徹底リサーチ～」：内海教諭

成果		課題と改善策
生徒の主体性を引き出す工夫	<ul style="list-style-type: none"> 視覚支援が充実していた。(掲示物・指し棒)⇒これまでの授業や本時の流れが見えた。 声かけの支援が充実していた。⇒前向きな声かけで明るい雰囲気づくり⇒生徒の課題をとらえた声かけ(ローマ字入力や文章表現方法) 	<ul style="list-style-type: none"> まずは本人にゆだね、失敗から学ばせるといいう視点も必要。
学びの深まりを実感するための工夫	<ul style="list-style-type: none"> 視点をあたえて振り返りをさせることができていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習内容をもっと多く盛り込んだ新聞にしていくと、学びがつながる。



